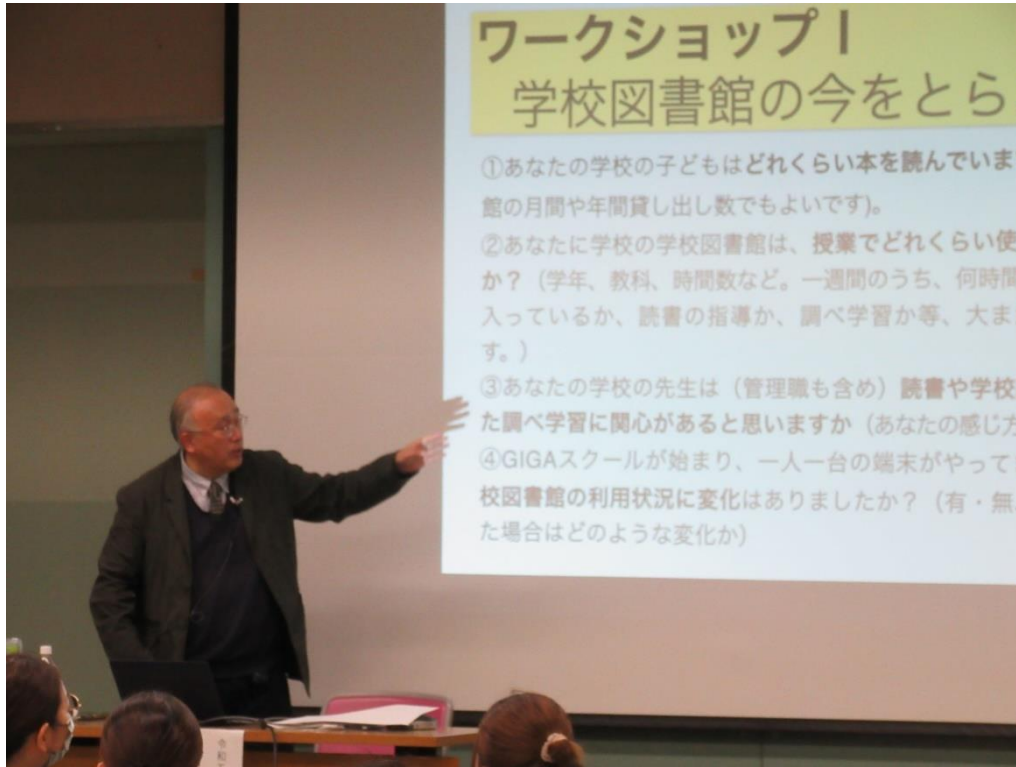


令和5年度(2023年度)

肥後っ子いきいき読書環境づくり事業講座

「GIGA スクール構想と

学校図書館の果たすべき役割」



主催 熊本県立図書館

期日 令和6年(2024年)2月5日(月)

13:30~16:00

会場 熊本県立図書館3階大研修室

講師 鎌田 和宏 氏

(帝京大学 教授)

参加者 39人

対象 公共図書館職員、小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校図書館職員(司書・司書教諭を含む)、学校図書館支援センター職員等
学校図書館支援担当者など

前半 グループディスカッション

「1人1台端末導入後の学校図書館の変化と現状について」

ワークショップ形式で「1人1台端末導入後の学校図書館の変化と現状について」と題し、学校図書館の今をとらえるグループディスカッションを3～4名のグループに分かれて行いました。

質問1「あなたの学校の子どもはどれくらい本を読んでいますか」、質問2「あなたの学校図書館は、授業でどれくらい使われていますか?」、質問3「あなたの学校の先生は(管理職も含め)読書や学校図書館を使った調べ学習に関心があると思いますか?」、質問4「GIGAスクールが始まり、一人一台の端末がやってきてから、学校図書館の利用状況に変化はありましたか?」の4つの質問について答える形で情報交換を行い、最後に画用紙にグループディスカッションの中で印象に残ったことについて記載し、ホワイトボードに掲示しました。参加者からは、他の参加者と情報交換ができて良かったとの声がありました。

後半 講演「GIGAスクール時代の教育実践と学校図書館」

質疑応答

後半は「GIGAスクール時代の教育実践と学校図書館」と題し、GIGAスクール時代の教育が目指すものと学校図書館の役割について講演が行われました。これからの教育は、探究的学習は変化が急激で何が正解かわからない事が出現する社会を生きることを想定して「どのように学ぶか」、「学び方を学ぶ」ものであり、言語活用能力、情報活用能力、問題発見活用能力といった学習の基盤となる資質・能力を養うことによって汎用的資質・能力の育成を目指すものです。タブレットなどの道具の使い方を教えるだけではなく、インターネット情報などの活用の仕方を学ぶことが大切であり、インターネット情報は真偽不明の情報や、偏った情報も多く、有用な情報を探すのは大変であり、断片的な情報も多いのです。本は、多くの手と目を経て作られており、正確な情報を掲載しているものが多く、また体系的にまとめられているものが多いので、小中学校や高校など発達の途上にある子どもにとっては、やはり本の方が有用です。ただし、電子書籍をきっかけに、紙の本の読書へと移行する子どももいるそうですので、活字離れが進んでいる現在、電子だから紙だからとこだわることよりも、子どもが読むことに親しめるよう、その子どもにあった働きかけをしていくことが重要です。

「令和の日本型教育」では、子どもの主体性を尊重し、好きなこと、興味があることを学ぶことにも重点がかけられています(個別最適な学び)。学習の基盤は読む力であり、その活用としての調べる力があります。読む力がないと学力の基盤ができません。また、「読書」の再定義を行い、読書は文学作品を読むなどの楽しむための読書だけではなく、知識を得る読書、情報を得る読書も読書であるとのこと。幅広く読める子どもを育てることが大切であり、多様な読み方の指導(例:点検読書、比較読書など)や、データベース及び電子書籍の整備が必要であると述べられ

ました。

学校図書館には、読書センター、学習センター、情報センターの3つのセンター機能があります。学習センターとして、授業で学校図書館を使ってもらうには、先生たちのニーズをつかみ、先生たちが使いたくなるような資料など図書館資料の充実が求められます。また新聞の複数配置も必要です。先生たちの中には、学校図書館の使い方がまだよくわからない先生もいらっしゃいます。学校図書館の機能の計画的・継続的利活用が大切であり、図書館資料を使うと学びやすく、学習も効率的になるということを学校図書館担当者はアピールする必要があります。また学校図書館のDX化でできることとして、学校図書館のWebサイト構築やデジタルコンテンツの導入、デジタル・パスファインダーの作成などがあげられました。そして、これからは情報教育(ICT)担当者とも連携、協働していくことが大切であり、学習の基盤となる能力の育成につながるということです。



【講座で紹介された参考資料】

- ・鎌田和宏著 『入門情報リテラシーを育てる授業づくり～教室・学校図書館・ネット空間を結んで～』 2016年 少年写真新聞社
- ・林良子著・鎌田和宏解説 『学びをつなぐ学校図書館～松江発！学び方指導体系表を活用しよう』 2022年 悠光堂
- ・塩谷京子・鎌田和宏著 『学習指導と学校図書館』 2022年 放送大学教育振興会
- ・「探究学校図書館学」編集委員会編著 『学習指導と学校図書館 探究学校図書館学第3巻』 2020年 全国学校図書館協議会
- ・『どう使う？学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』編集委員会編著 『どう使う？学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』 2022年 全国学校図書館協議会
- ・文部科学省「学校図書館ガイドライン」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm
- ・「先生のための授業で役立つ学校図書館活用データベース」
<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/>
- ・百科事典『ポプラディア(第3版)』活用のための指導案・ワークシート集(無料)
<https://kodomottolab.poplar.co.jp/hello-poplardia/download/>

【参加者の感想(アンケートより一部抜粋)】

・読書＝文学作品ということが無意識に考えていたことに気付くことができたのは、よかったと思う。(小学校・教諭)

・タブレットを使用する調べ学習にただ流されてはいけないということ、図書館の資料の重要さにはっとしました。先生(授業)との兼ね合い、連携、難しいところもありますが、しっかり意識したいと思いました。(小学校・学校司書)

・指導要領などの見直しをすることができ、図書館が目指す役割を確認できた。新聞複数、タブレットの司書への配布、私自身のスキルアップなどの必要性を感じます。(小学校・学校司書)

・タブレットが入り、調べ学習が無くなり(図書館利用)、朝読書も無くなったので、今後何か出来ることがあればと思って話をききました。発信できることが見つかり活用したいと思いました。(中学校・学校司書)

・資料も多く準備していただき、参加動機となった課題について具体的に考えることが講演中はもちろん、ふり返りにおいてもできそうです。”GIGA スクール”に関して抽象的だったり、図書館の具体的な取り組みと結び付けきれていなかったことを結びつけることができました。(高校・学校司書)

・グループディスカッションでは、他校の状況をじっくり報告しあうことができた。講演では、これからの教育の中での学習の方法、図書館活用のヒントを多く学ぶことができた。(高校・学校司書)

・情報教育とのつながりも大切だと分かりました。学校図書館だけで完結するだけでなく、他との連携も必要だと思いました。(特別支援学校・司書教諭)

・読書の再定義、インターネットの情報の真偽、フィルターバブル、データベースと電子書籍の有用性など改めて知ることができた。子ども達の「知りたい」が載っている本をもっと所蔵しなければと思いました。(公共図書館)